

風花 早村 春鶴

セーターを厚手に変へて北国へ
冬の日や日溜り求む立話
風花の地につくまでの舞ひ姿
風花の舞ひ終へ直ぐに地に吸はる
野も山も育くむ日射し春近し

冬休み 山本 春英

古家に葉ぼたん小さく並びをり
新曲に挑みて返上冬休み
セーターの袖長くして卒寿かな
遊ぶ子の見へかくれして冬木立
娘は父に素人あんま冬休み

冬の日 森本 智子

凍て黙る滝のかなたの空青し
時の間の校庭の雪見らはしやぎ
寒満月大地に大の字影法師
年年に[※]疵はセーターを編み直し
冬の日や鍵つ子淋し時長し

梅 山内都代子

盆梅の木肌白々繋ぐ^{いのち}生命
春寒やバス待つ人の固まりて
早春の庭芽吹き^{とら}の気配まばら
露の臺土手に紫二つ三つ
正座して待つ厄払巫女の舞ひ

寒さ 坂井 白萩

三輪を枝に残せし寒桜
急ぐ旅寒紅梅に足とどむ
かるた取り負けを演じし大人たち
[※]鶯替の再開祝ひ福もらふ
足取りを強め書塾へ夜の雪

※ 疵……亡き母のこと。

※ 鶯替…大阪天満宮では、一月二十五日の神事。木で作った鶯鳥を近くの人と交換し金の鶯に当たれば幸運。

